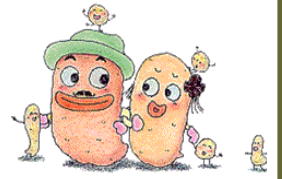


# 湯戸飛夜いけいけだよ



Jinen Joe family

## 発行 西徳山まちづくりの会

### 記事:

- ・ テレビに出演しました
- ・ 連載小説  
『男でござる 新  
説天野屋利兵衛』  
第6回
- ・ 令和4年度まちづ  
くりの会総会を開  
催しました
- ・ 今後の行事予定

### 会員募集中

あなたも「西徳山  
まちづくりの会」  
で一緒に活動しま  
せんか。会では、  
常時、会員を募集  
しています。

E-mail :  
nishitokuyamamatizuk  
urinokai@gmail.com

## テレビに出演しました

ねえ、ねえ、観てくれた？5月17日に放送されたTYSのmixちゆう番組いね。これに、私らあ4人が出ちよるんよ。「GO大作戦」ちゆうコーナーにね。収録は5月10日の午前8時半からで、助っ人として私らあ4人が、メガネ山口さんと一緒に、カン喜の所の交差点からソレーネ周南まで、国道2号沿いのゴミ拾いをしたのいね。ごみ袋と火箸を持って歩道を歩きながら、草むらの中、生垣の中、手や足を伸ばしてゴミを拾うたんよ。弁当殻、煙草の吸殻がそこここに捨てられていて、自分のゴミをなんで持って帰らんのかと、怒り心頭よ。ポイ捨て禁止!!一番驚いたのが、幅2メートルの溝の中。ゴミの下にまたゴミ、飲みかけのペットボトルと凄い！これでもかとゴミが捨ててあるの。あつという間にゴミが5袋よ。なんでこんな分かりにくい所に捨てるのっていう感じ。城山先生曰く、「ブロークンウインドウ（割れ窓理論）ですな。」ですって。何のこと？先生は博学でいろんなことを知っちよるけど、薄学の私らあには全くクエスチョン……。でも、今回感じたのは、外から見え難い所にゴミが多く捨てられていたこと。

今回参加して、あらためてゴミの多さに驚かされちゃった。ゴミは捨てないのが一番。地域を綺麗にしたい気持ちを大切に一人ひとりの心掛けが必要よね。まちづくりの会としては、TV放映をきっかけに、環境美化運動のひとつとして、大人も子どもも参加のゴミ拾い活動を推進していきたいと思うの。そして、ゴミのない西徳山を目指したいと思うのよね。  
(昭ちゃん談)



t y s H P より無断転載

連載小説

『男でござる 新説天野屋利兵衛』

第六回 文城山 耕作

前号までのあらすじ

御家断絶となつた神村将監と里の娘萬との間に生まれた喜兵衛はすくすくと育ち、齢も十五歳になつた。父から読み書きなどをしつかりと仕込まれ、母からはその愛情を注がれた。

風待ちのために寄る船乗りたちの話を聞くうちに、いつしか西廻り航路を開設した河村瑞賢のような商人になりたいとの思いが、喜兵衛の気持ちの大部分を占めるようになった。ある日喜兵衛は両親に彼の気持ちを打ち明ける。商人になるにはまず船乗りを目指すことにする。喜兵衛は将監の計らいで、三田尻から出る天野屋の船に乗り組むことになり、四郎谷を後にした。その天野屋の船は播州赤穂の塩の輸送も一手に引き受けている。

堺へ

船は航海をしている時よりも停泊しているときのほうが断然忙しい。

船の着岸時には、多くの商人が集まってきている。まず、商人たちの注文の品から売りさばかれる。次に上方で積み込んだ書画や骨董、着物や刀剣陶器などの様々なものを売る。いかに高

く売るか、そして多くの利益を出すかは、すべて船頭の腕にかかっている。

次には積み込みの仕事が待っている。喜兵衛が乗船したのは、この積み込みの前である。まず、藩の専売品の塩を積み込む。こちらは為替で決済する。

最後にその他の長州の商人が持ってきた品物を買入れ入れる。いいものはいかに安く買うか、粗悪品は買い叩く。ここでも船頭の腕が試される。船頭の信吉はテキパキと次々商品を積み込んでいく。船頭は船の運航の責任者であるとともに、商人としての商才も兼ね備えなければならなかったのである。

一回の寄港で多くの金が動く。売買はすべて現金で行われる。そして塩を積み込む人夫たちの元締めへの支払い、着岸料などの支払いを終え、乗組員たちへの給金が配られる。それでもなお船頭の信吉の懐には大金残ることになる。

荷物の積み込みを終え、諸経費の支払いや事務手続きを終え、船はその喫水をグツと下げた。

風を読み、潮を読んで、「さあ出港だ。」船頭の信吉が静かに言うと、脇船頭の又七が大声で、「皆の者、出港だ。全員持ち場につけ。」と叫んだ。「喜兵衛、俺のそばを離れるな。」又七は喜兵衛を氣遣つてくれた。

水夫たちはそれぞれの持ち場に散ら

ばつた。

又七は次々と水夫たちに指示を出し、船はゆるゆると沖へ向かって進み始める。船頭の信吉はまたも静かに「堺へ向かう。」という、又七が「取舵いっぱい。帆を高く張れ。」と叫ぶ。「取舵いっぱい。」舵取りが復唱し舵棒を押すと、船はゆっくりと東へ向かって回頭した。船が回頭を終えると舵取りが叫ぶ。「ヨーソロー。」（「よろしゅうそうろう」のこと）ほかの水夫たちは大きな帆を上げる。帆が帆柱の天辺まであがると、船はその速度を増していく。喜兵衛は又七の出した指示やその時の状況などをしっかりと記憶に留めるのであった。

ちなみに今の大型船は、出入港の時には、タグボートに押されたり引つ張られたりしながら着岸または離岸していくが、大航海時代の欧州の船乗りたちは、自力でそれを行ったという話を聞いたことがある。その風の力と錨の働きだけでである。その技はまさに職人技と讃えられたという。元禄前のこの時代の船乗りたちの技術も相当なものだったと予想される。

船は周防灘を東へ進む。三田尻の港を出て間もなく四郎谷の沖を通る。喜兵衛はこの年になるまで育んでくれた故郷の方角へ目を向けて、感無量になつた。

『この年になるまで育ててくれた両

親のことを思うと、何が何でも立派な商人になることが恩返しというものだ。お父さん、お母さんありがとう。里の人たちにもお世話になった。いざさらばだ。四郎谷のことは決して忘れはしない。』心に誓う喜兵衛であった。

船は一路大阪の堺へ向けて、西風に乗りその帆をいっぱいに拵げてぐんぐん進む。喜兵衛はその船の速度に驚かされると同時に自然の風の力にもまた驚くのであった。まさに順風満帆の航海である。

水夫たちは交替で見張りをしたり舵取りをしたり、それぞれが船上の持ち場で働いている。喜兵衛は荷物の積み込みから出港の手順、操船のことまで、これまでの一連の作業を書き留めようと一心不乱に筆を動かした。暫くするとなんだかむかむかして気持ち悪くなってきた。これが船酔いというものか。

船は天候に左右される。天気は良く順風のうちにその航程を稼ぐ。途中来島海峡で、帆を下ろして汐待をした。再び航海は続く。そして備讃瀬戸に差し掛かった時、脇船頭の又七の指示で、いったん帆を下ろして錨を投げた。あたりには多くの島々がある。喜兵衛にもこの場所は交通の難所だということがわかる。塩飽諸島(今の瀬戸大橋のあたり)である。暫くするとどこからともなく数人の男たちが乗った小舟が近づいてきた。又七は縄梯子を下ろして男達の一人を船の上にあげて、何やら話をした。その男はそのま

ま船上に残り、又七に代わって水夫たちに指示を出し始めた。舵取りにも面舵取舵の指示をして、小舟の後をついていく。彼らは塩飽衆という水先案内人なのである。交通の難所は彼らの指示で事故なしで通ることが出来る。塩飽衆は案内料を受け取り、それを生業にできるのである。これも河村瑞賢の西廻り航路開設のひとつの功績なのである。

明石海峡は潮が順目だったのでそのまま一気に船は大阪湾に入り、堺の港にゆるゆると接岸することができた。三田尻を出港して六日目のことである。

### 廻船問屋(巻)

喜兵衛を乗せた船は、廻船問屋天野屋のある堺に着いた。船頭の信吉が喜兵衛に言う。

「喜兵衛、この船は必要な荷物を積み下ろししたら、江戸へ向かう。お前は天野屋の当主の利兵衛様に挨拶をして、その指示に従いなさい。」

喜兵衛は、「この度の航海では大変お世話になりました。仰せの通りご御当主様にご挨拶をします。」

「ところで、喜兵衛何やら熱心に書いておったが、何を書いておった。」

「はいこれでございます。」と喜兵衛は、風呂敷包みから帳面を取り出し

て信吉に見せた。

「これは、いつの間にもここまで書いたのだ。」

帳面には操船の仕方、船の位置情報、交通の目印や島や半島の略図、天候やおおよその時刻、夜の月や星の位置などが詳細にわたり記されていた。航海日誌を更に詳しくしたようなものであった。信吉は

「俺の知らないことまでが書かれています。今まで経験だけで船を動かしてきたが、このような記録があると便利だ。俺にこの書き方を教えてくれないか。」

「船頭様に教えるだなんて。恥ずかしい次第でございます。」

「それにしても、こんな天文のことをだれに習った。」

「父に習いました。故郷の四郎谷では多くの人たちが知っています。」

船頭の信吉と喜兵衛は再会を誓い合って別れた。喜兵衛は下船して天野屋へ向かった。

天野屋は船着き場に程近い場所にある。喜兵衛はあまりのにぎやかさに驚きながら、天野屋の店先に立っていた。店は間口十六間もあるうかと思われる堂々としたものであった。

喜兵衛は番頭と思われる人に丁寧に挨拶をして、自分のことを説明すると、奥の間に通された。

# 令和4年度まちづくりの会総会を開催しました

## 編集後記

周南市文化会館で開催された西京コンサートに行った。ピアニストはショパンコンクール2位の反田恭平、指揮は佐渡裕、オーケストラは題名のない音楽会でお馴染みの新日本フィル。

会場は満席で、プログラムはベートーヴェン。皇帝、交響曲七番と久しぶりの生の音に酔いしれた。

そして、アンコール曲として指揮者の佐渡さんが選んだのは、ロシアの作曲家チャイコフスキーの「アンダンテ・カンタービレ」。

キーウにあるチャイコフスキー記念音楽院もロシア軍によって破壊された。一日も早く戦争が終わることを願うとの佐渡さんの言葉。

誰もがきっと一度は聞いたことがある美しい曲である。あの戦争と平和のトルストイもこの曲に涙したとのこと。本当に一刻も早く戦争が終わりますように。この世から戦争がなくなりますように。



令和4年4月16日正午から戸田駅前広場でまちづくりの会総会を開催しました。晴天ながら冷たい風が強く吹いて、少し肌寒い日でした。参加者13人で、総会は手短かに済ませ、海鮮BBQと生ビールで、久々の懇親会を楽しみました。



## 【令和4年度活動方針】

(1) 戸田駅を中心とした活動を継続する

①西徳山の玄関口である戸田駅を「花の駅」として整備する

・戸田駅を花で飾る…花壇の花の種類を増やす。

・「湯戸飛夜いけいけだより」で「花の駅」を積極的にPRする。

②戸田駅前でのイベントを継続する（スタミナ補給BBQ大会、秋祭りなど）

(2) 「道の駅ソレーネ周南」を拠点とした活動に取り組む

①「道の駅ソレーネ周南」の盛り上げに協力する（イベントへの参画など）

(3) 西徳山の発展を目指した新たな活動に取り組む

①“観光資源”“自然環境”を活かした活動を目指す

・西徳山3地区の歴史・観光・史跡を紹介したMAPをつくる（ウォークMAPと連動）

・地元の有名人を探し「湯戸飛夜いけいけだより」で紹介する

② 西部地域のウォーキングコースをPRする

・「てくてくウォーク」のコースマップの作成とマップのHPへの登録

(4) 交流・研修・広報活動に取り組む

①研修旅行、見学会の開催

②「湯戸飛夜いけいけだより」の定期発行

(5) 組織を充実し拡大する

①会員増強

・広報、イベントを活用して会員を増やす

②会員の参加を促す

・会員の多くが参加できるイベントを考える

・映画鑑賞等のイベント

(6) 他の諸団体と連携し効果的な活動を展開する

①他団体との連携

・地域で行われるイベントへ参加し、自治会などの地域住民とも連携して、まちづくり活動を継続する。

②行政との連携及び提案

## 発行責任者

会長 神本康雅  
広報部長 木曾裕子

## 西徳山まちづくりの会

ホームページURL:

nishitokuyama.web.fc2.com

## 今後の行事予定

### 戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。

お手伝いしていただける方、大歓迎です。